

第2編 設備別編

第1章 水門設備

第1節 直接測定による出来形管理

1. 河川・水路用水門設備

2. ダム用水門設備

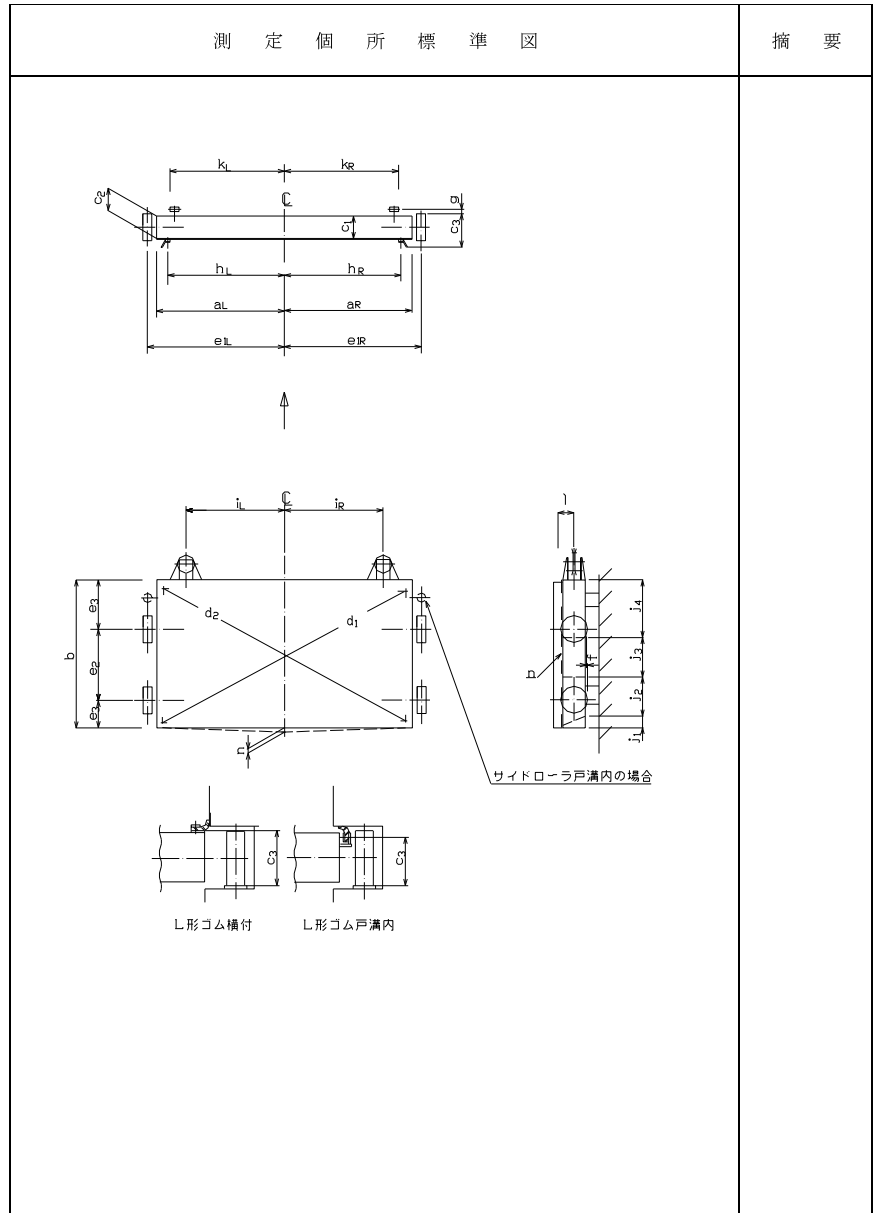
第2節 品質管理

第1節 直接測定による出来形管理

1. 河川・水路用水門設備

(1) 三方水密ローラゲート

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート (製作)	1. 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。		
	A	扉体の全幅 (a _L , a _R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁の高さ (c ₁)	H<0.5 ±2 0.5≤H<1.0 ±3	桁1本につき2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	端桁の高さ (c ₂)	1.0≤H ±4	左右各2箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座面から主ローラ踏面までの距離 (c ₃)	± 5 +5, -3	(L形ゴム横付タイプ) 左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。 (L形ゴム戸溝内タイプ) 左上上・中・下3箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	基準点对角長の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 (d = d ₁ - d ₂)
	A	主ローラの支間 (e _{1L} , e _{1R})	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ中心間距離 (e ₂)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラから扉体下端までの距離 (e ₃)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5	上下左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定する。
	B	水密幅 (h _L , h _R)	+5, -3 ± 5	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ2m毎に鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合には上下各1箇所測定する。) (L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を高さ2m毎に鋼製巻尺で測定する。(2m以下の場合には上下各1箇所測定する。)
	B	吊金物 (シーブ) 中心間距離 (i _L , i _R)	± 5	1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主桁間隔 (j)	± 5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	サイドローラ踏面間距離 (k _L , k _R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	吊金物 (シーブ) 中心とスキンプレート間の距離 (1)	± 3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。



工 種	分 類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方ローラゲート(製作)	1. 扉体			
	A	底部の曲がり (m)	± 3	レベル、金属製直尺等で測定する。
	A	扉体の平面度 (n)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

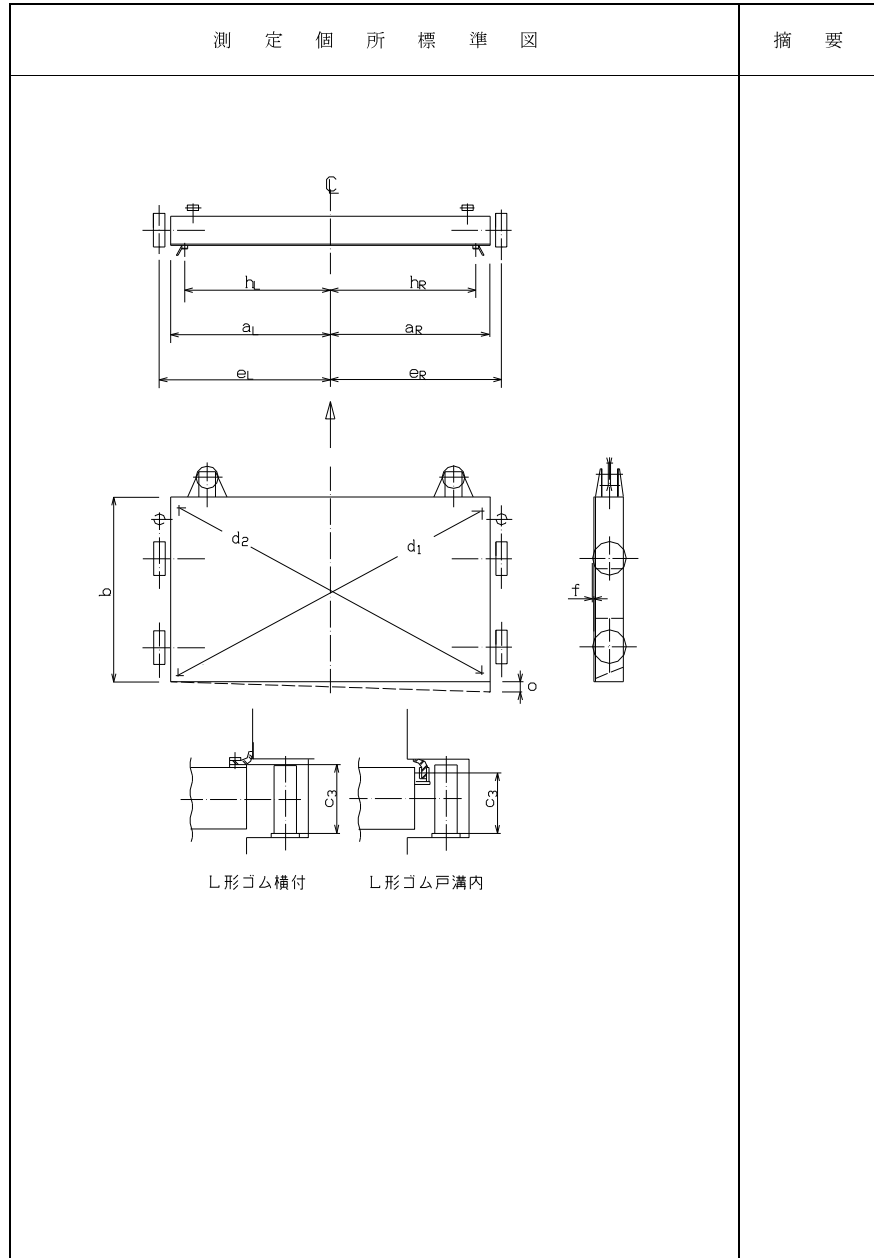
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(製作)	2. 戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。			
	A	純径間 (a_L, a_R)	+3, -5	(L形ゴム横付タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
			±5	(L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板 中心間距離 (b_L, b_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	サイドローラ踏 面間距離 (c_L, c_R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	主ローラ踏面と フロントローラ 踏面間距離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	側部戸当りと底 部戸当りとの関 係位置 (e)	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	戸当り高さ (f)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板 の厚さ (g)	+5, -0	機械加工を行う場合	上下各1箇所を ノギスで測定す る。
			JISによる	機械加工を行わない場合	
	A	主ローラレール 桁高さ (h)	$H < 0.5$ ±2 $0.5 \leq H < 1.0$ ±3 $1.0 \leq H$ ±4	上下中央各1箇所を金属製直 尺で測定する。	H: 腹板高(m)
	A	基準点間の対角 長の差 (i)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($i = i_1 - i_2 $)	
	A	底部戸当り表面 の平面度 (j)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。	
	A	底部戸当り表面 の真直度 (k)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板 の真直度 (1)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定 する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A	主ローラ踏面板 の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。	
	A	側部水密面の真 直度 (n)	3	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定 する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)	
	A	側部水密面の平 面度 (o)	2/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで 測定する。	
B	サイドローラ踏 面の真直度 (p)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定 する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定す る。)		

測定箇所標準図	摘要

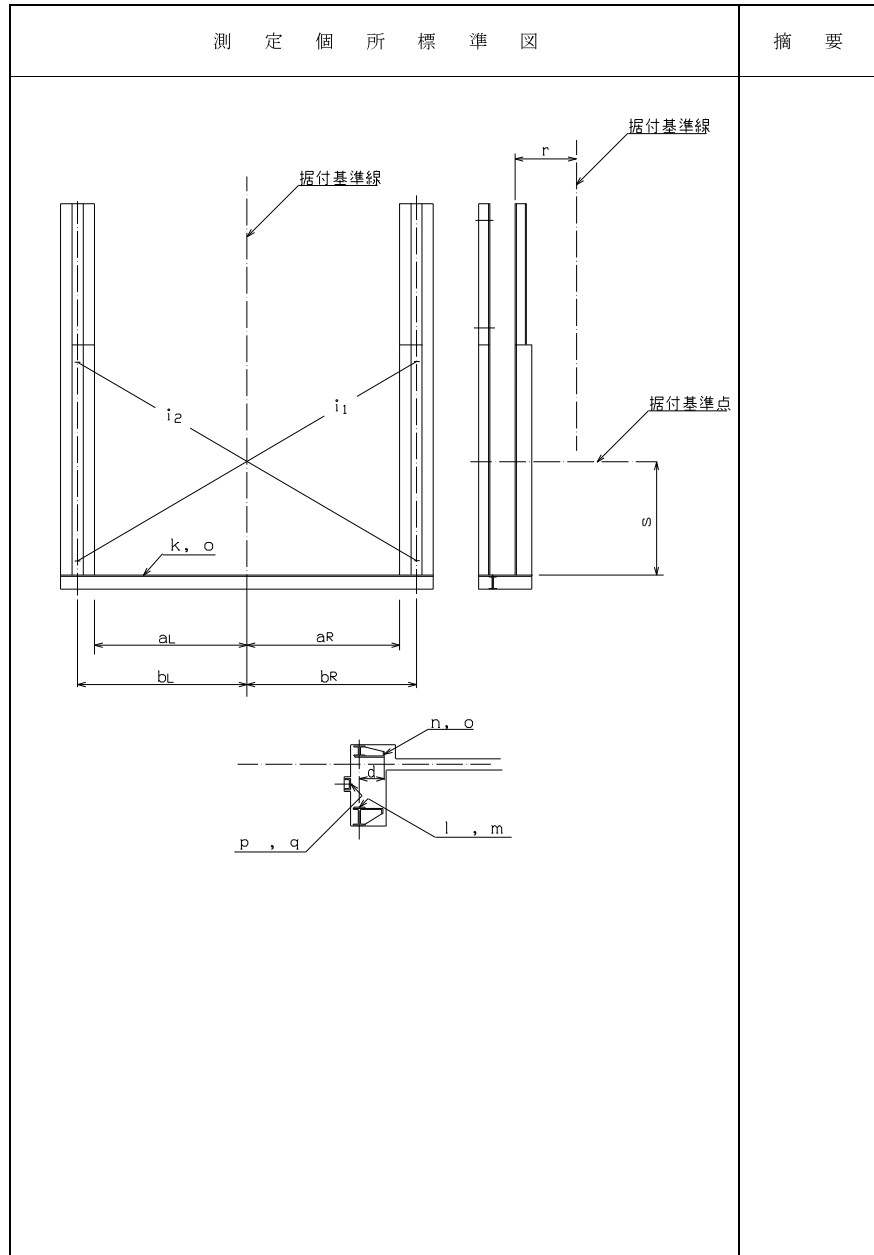
工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(製作)	2. 戸当り	サイドローラ 踏面の平面度 (q)	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	3. 開閉装置	(5)開閉装置寸法による。		

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(据付)	1. 扉体			
	B	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座 面から主ローラ 踏面までの 距離 (c)	± 5	(L形ゴム横付タイプ) 左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定する。
			$+5, -3$	(L形ゴム戸溝内タイプ) 左右各3箇所(上・中・下)をレベルと金属製直尺等で測定する。
	A	基準点对角長 の差 (d)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
	A	主ローラの支 間 (e_L, e_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面 の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、鋼製巻尺等で測定する。
	B	水密幅 (h_L, h_R)	$+5, -3$	(L形ゴム横付タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ2m毎に 測定する。(2m以下の場合には上下各1箇所測定 する。)
			± 5	(L形ゴム戸溝内タイプ) ゴム受座中心間距離を鋼製巻尺で高さ2m毎に 測定する。(2m以下の場合には上下各1箇所測定 する。)
A	扉体の傾き (o)	± 5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)	



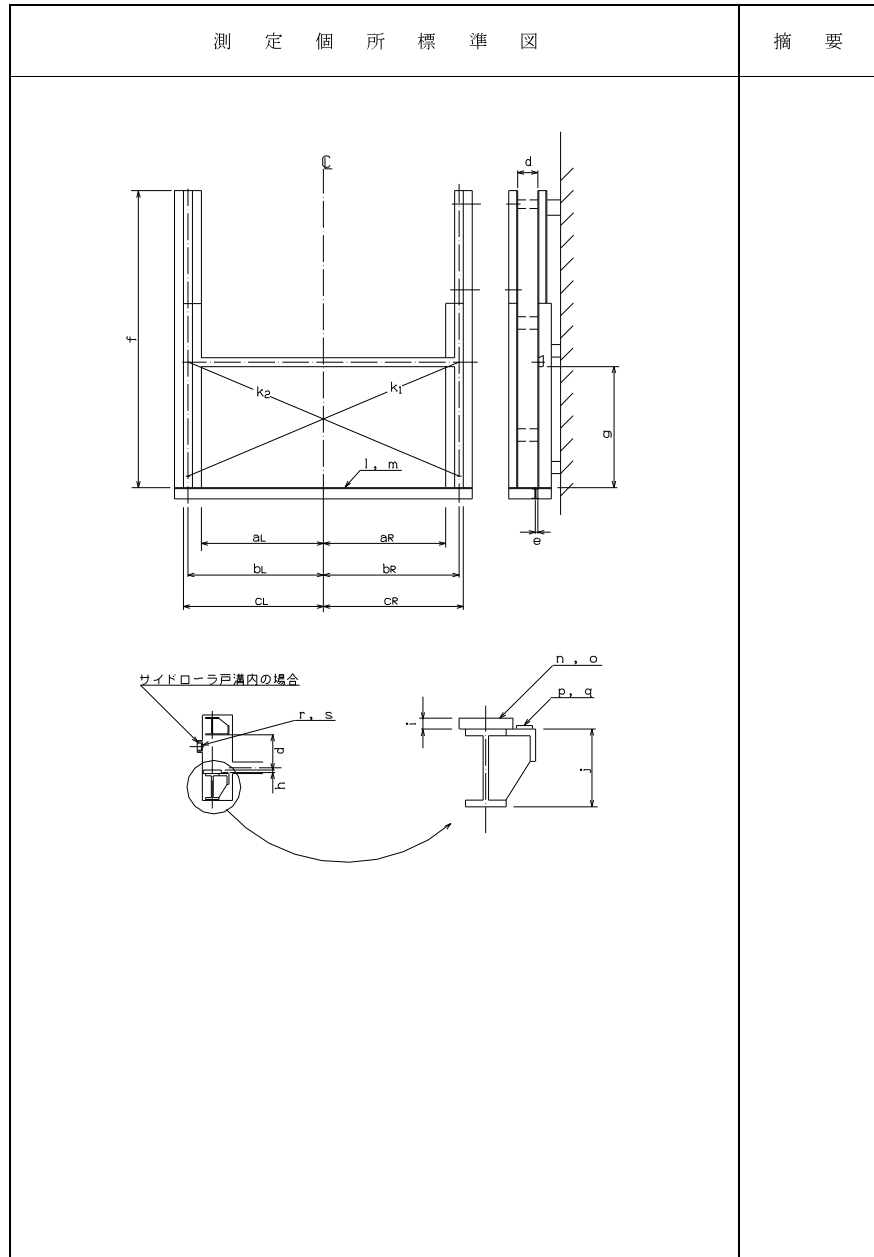
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (1) 三方水密ローラゲート(据付)	2. 戸当り	A 純径間 (a _L , a _R)	+3, -5	(L形ゴム横付タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
			±5	(L形ゴム戸溝内タイプ) 上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 主ローラ踏面板中心間距離 (b _L , b _R)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		B 主ローラ踏面板とフロントローラ踏面板間距離 (d)	±5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A 基準点間の対角長の差 (i)	10	鋼製巻尺で1箇所を測定する。 ($i = i_1 - i_2 $)
		A 水密面の水平度 (k)	2	水平基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A 主ローラ踏面板の鉛直度 (1)	2 (4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 主ローラ踏面板の平面度 (m)	1 (2)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 水密面の鉛直度 (n)	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A 水密面の平面度 (o)	2/m	長さ1mの直定規から変位をすきまゲージで測定する。
		B サイドローラ踏面の鉛直度 (p)	6 (6)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B サイドローラ踏面の平面度 (q)	2 (3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B 据付基準線から主ローラ踏面板までの距離 (r)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B 底部戸当りの標高 (s)	±5	中央部をレベルで測定する。	
3. 開閉装置	(5) 開閉装置寸法による。			



工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	1. 扉体	扉体の平面度 (o)	小形 3	dの対角基準点4点とその交点の計5点をレベルで測定する。 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上
	Δ		中形 5	
			大形 7	

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

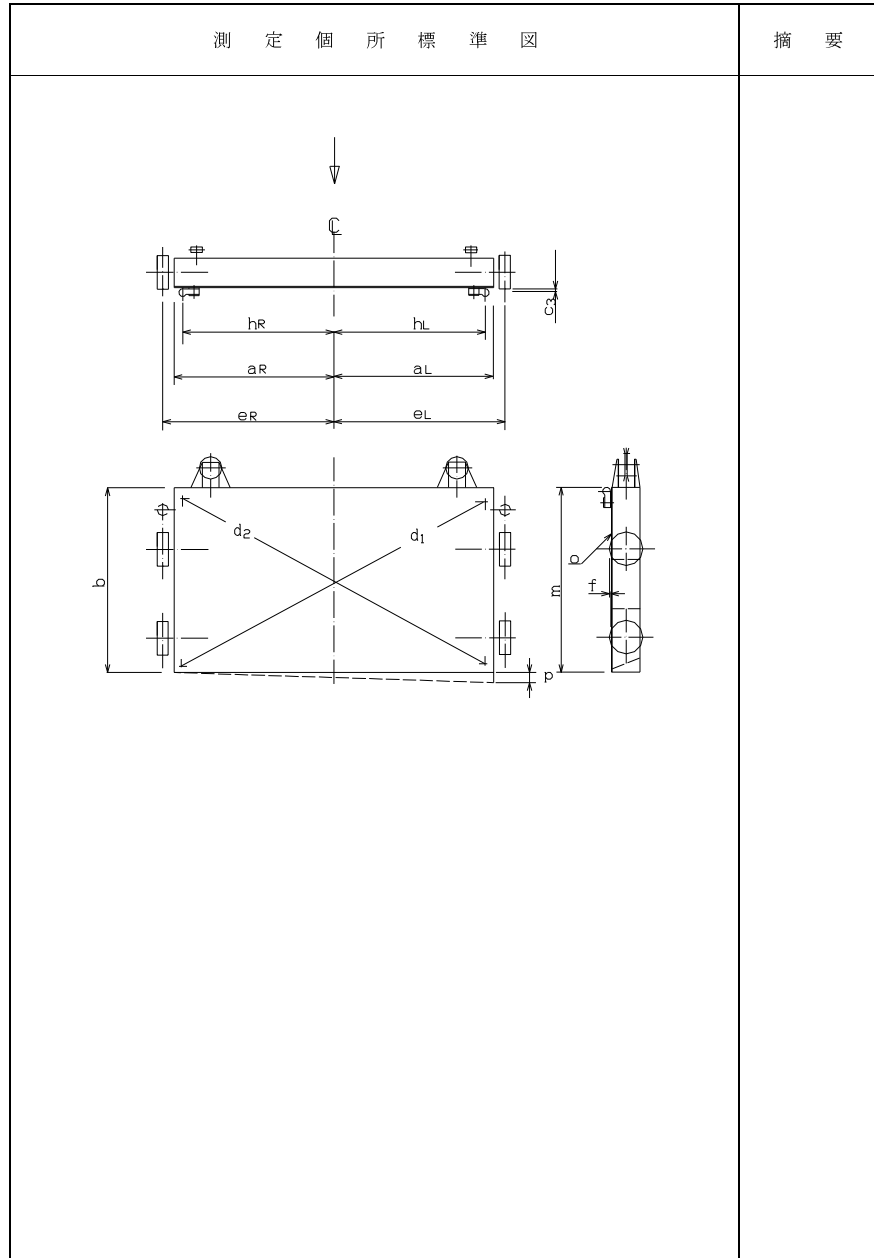
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート (製作)	2. 戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。			
	A	純径間 (a _L , a _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板中心間距離 (b _L , b _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	サイドローラ踏面板間距離 (c _L , c _R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	主ローラ踏面とフロントローラ踏面板間距離 (d)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	± 3	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	戸当り高さ (f)	± 10	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	呑口高さ (g)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板と水密面との距離 (h)	± 2	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板の厚さ (i)	+5, -0 JISによる	機械加工を行う場合 機械加工を行わない場合	上下各 1 箇所をノギスで測定する。
	A	主ローラレール桁高さ (j)	H<0.5 ±2 0.5≤H<1.0 ±3 1.0≤H ±4	上下中央各 1 箇所を金属製直尺で測定する。	H : 腹板高 (m)
	A	基準点間の対角長の差 (k)	10	鋼製巻尺で測定する。 (k = k ₁ - k ₂)	
	A	底部戸当り表面の平面度 (l)	1/m	長さ 1 m の直定規からの変位すきまゲージで測定する。	
	A	底部戸当り表面の真直度 (m)	3	水平基準線からの変位を金属製直尺で測定する。	
	A	主ローラ踏面板の真直度 (n)	2 (3)	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。	
	A	主ローラ踏面板の平面度 (o)	1 (2)/m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。() 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。	
	A	水密面の真直度 (p)	2	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)	
	A	水密面の平面度 (q)	1/m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。	



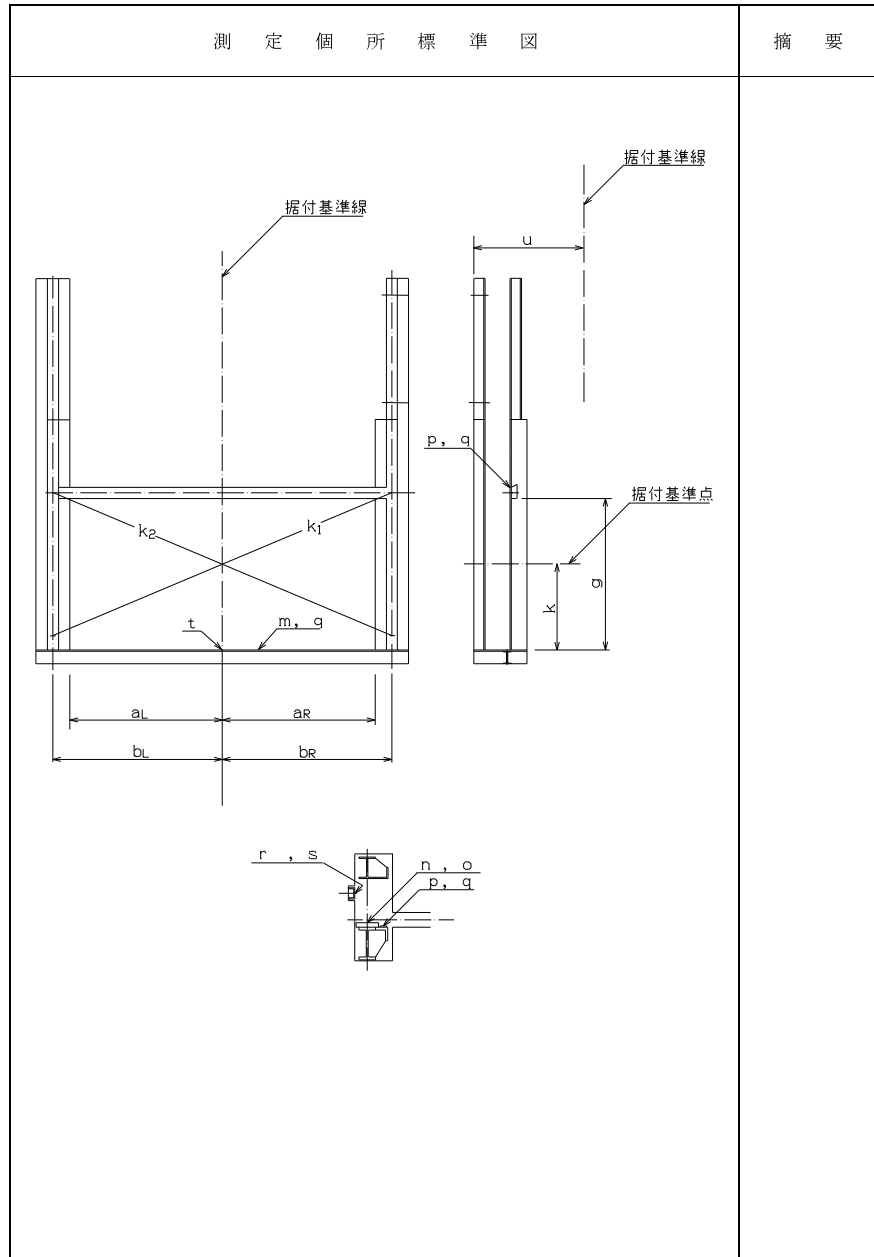
工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(製作)	2. 戸当り	B サイドローラ踏面の真直度(r)	6	ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B サイドローラ踏面の平面度(s)	2(3)/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	3. 開閉装置	(5)開閉装置寸法による。		

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(据付)	1. 扉体			
	B	扉体の全幅 (a_L, a_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	B	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	水密ゴム受座 面から主ロー ラ踏面までの 距離 (c)	± 2	左右各2箇所をレベルと金属製直尺等で測定す る。
	A	基準点对角長 の差 (d)	10	1箇所を鋼製巻尺で測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
	A	主ローラの支 間 (e_L, e_R)	± 5	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。
	A	主ローラ踏面 の偏差 (f)	1	左右各1箇所をレベル、金属製直尺等で測定す る。
	B	水密幅 (h_L, h_R)	± 5	ゴム受座中心間距離を長さ2m毎に鋼製巻尺で 測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定 する。)
	B	側部水密高さ (m)	± 5	ゴム受座中心間距離を左右各1箇所を鋼製巻尺 で測定する。
	A	扉体の平面度 (o)	小形 3 中形 5 大形 7	(現場溶接がある場合) 金属製直尺で測定 d の対角基準点4点とその交 点の計5点を測定する。 小形水門：扉体面積 10 m^2 未満 中形水門：扉体面積 10 m^2 以上 50 m^2 未満 大形水門：扉体面積 50 m^2 以上
	A	扉体の傾き (p)	± 5	全閉前の左右岸・中央を直定規で測定する。 (水流直角方向)



工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準	
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (2) 四方水密ローラゲート(据付)	2. 戸当り	A	純径間 (a_L, a_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	主ローラ踏面板中心間距離 (b_L, b_R)	± 5	上下各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。
		A	呑口高さ (g)	± 5	左右岸及び中央部を鋼製巻尺で測定する。
		A	基準点対角線長の差 (k)	10	鋼製巻尺で測定する。 ($k = k_1 - k_2 $)
		A	水密面の水平度 (m)	2	水平基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		A	主ローラ踏面板表面の鉛直度 (n)	2 (4)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		A	主ローラ踏面板表面の平面度 (o)	1 (2)/m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		A	水密面の鉛直度 (p)	2	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		A	水密面の平面度 (q)	1/m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		B	サイドローラ踏面の鉛直度 (r)	6 (6)	鉛直基準線からの変位を下げ振り、金属製直尺で 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		B	サイドローラ踏面の平面度 (s)	2 (3)/m	長さ 1 m の直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		B	底部戸当りの標高 (t)	± 5	中央部をレベルで測定する。
	B	据付基準線から主ローラ踏面までの距離 (u)	± 5	左右各 1 箇所を鋼製巻尺で測定する。	
3. 開閉装置	(5) 開閉装置寸法による。				



(3) シェル構造ローラゲート

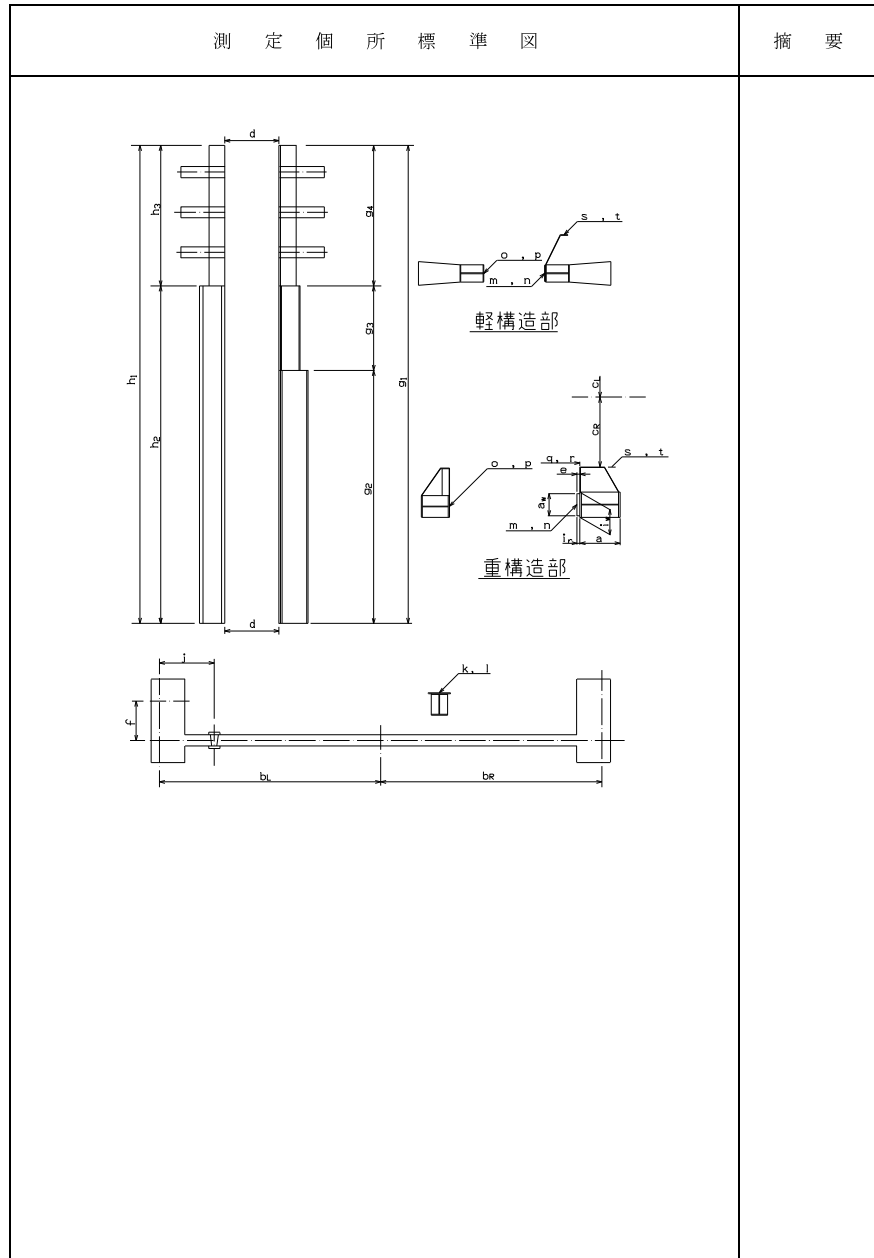
工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準			
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(製作)	1. 扉体	A	扉体の全幅 (a _L , a _R)	± 5 ± 8	a ≤ 20m a > 20m	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	扉体の全高 (b)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	扉体の厚さ (c ₁)	+10, -3		中央、左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	水密ゴム受座から主ローラ踏面までの距離 (c ₂)	+5, -3		各ローラ1箇所を金属製直尺で測定する。	
		A	主ローラの支間距離 (d _L , d _R)	± 5 ± 8	a ≤ 20m a > 20m	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	主ローラ中心間距離 (e ₁)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	主ローラから扉体下端までの距離 (e ₂)	± 5		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1		各ローラ1箇所を金属製直尺で測定する。	
		B	主ローラ踏面からサイドローラまでの距離 (g)	± 5		上下左右各1箇所を金属製直尺で測定する。	
		A	主ローラ中心からスキンプレートまでの距離 (h)	± 5		上下左右各1箇所を金属製直尺で測定する。	
		B	水密幅 (i _L , i _R)	± 5 ± 8	a ≤ 20m a > 20m	鋼製巻尺で高さ2m毎に測定する。 (2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
		B	吊金物(シーブ)中心間距離 (j _L , j _R)	± 5 ± 8	a ≤ 20m a > 20m	1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	吊金物(シーブ)中心とスキンプレート間の距離 (k)	± 3		左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		A	底部の曲がり (l)	± 5		レベルで5m毎に測定する。	
		B	スポイラ間隔 (m)	± 10		各々鋼製巻尺で測定する。	
		B	休止フック間隔 (n _L , n _R)	± 5		1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
		B	ダイヤフラム間隔 (o)	± 10		各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	

測定箇所標準図	摘要

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(製作)	A	水平桁の高さ (p ₁)	H<0.5 ±2	鋼製巻尺で数箇所抜き取りして測定する。	H: 腹板高(m)	
		端縦桁の高さ (p ₂)	0.5≦H<1.0 ±3 1.0≦H ±4			
	A	底面板の傾斜角度 (q)	+0.3° , 0°	2箇所を角度ゲージで測定する。		
	A	ゲートリップの長さ (r)	± 2	2箇所を金属製直尺で測定する。		
	A	底面板と背面板の交点部の曲率半径 (s)	± 1 0	2箇所を曲げ型ゲージで測定する。		
	A	頂板の傾斜角度 (t)	+0.3° , 0°	2箇所を角度ゲージで測定する。		
	A	頂板とスキンプレートの交点部の曲率半径 (u)	± 1 0	2箇所を曲げ型ゲージで測定する。		
	A	円弧形状頂板の円弧半径 (v)	± 1 0	3箇所を曲げ型ゲージで測定する。		
	A	起伏部側部と下段扉整流板の間隔 (D)	± 3	(2段扉の場合) 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
	A	起伏扉吊金物(シーブ)中心間隔 (E _L , E _R)	± 5	(2段扉の場合) 1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
	A	起伏部扉体全幅 (F _L , F _R)	± 5	a ≦20m	(2段扉の場合)	
			± 8	a >20m	1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	起伏部扉体高さ (G)	± 5	(2段扉の場合) 左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
	A	起伏部越流端の真直度 (H)	1 0	(2段扉の場合) レベルで2m毎に測定する。		
	A	起伏部の下段扉側水密部の真直度 (I)	4	(2段扉の場合) レベルで2m毎に測定する。		
	A	起伏部ヒンジ軸の真直度 (J)	4	(2段扉の場合) レベルで軸毎に測定する。		
	A	スライド式2段扉の扉間水密部の平面度 (K)	3	(2段扉の場合) 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。		

測 定 個 所 標 準 図	摘 要

工種	分類	項目	管理基準値 (mm)	測定基準		
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(製作)	2. 戸当り	A	主ローラレール桁高さ (a) H<0.5 ±2 0.5≦H<1.0 ±3 1.0≦H ±4	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
		H: 腹板高(m)				
	A	主ローラレール踏面板の幅 (aw) B<0.5 ±2 0.5≦B<1.0 ±3 1.0≦B ±4	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。			
	B: フランジ幅(m)					
	A	主ローラレール踏面中心間距離 (b _L , b _R)	±5 ±8	a ≤20m a >20m	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	サイドローラレール間の距離 (c _L , c _R)	±5 ±8	a ≤20m a >20m	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	A	戸溝の幅 (d)	±3	上下各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
	A	主ローラレール踏面と水密板面との距離 (e)	+3, -5	上下各1箇所をノギスで測定する。		
	B	底部戸当りの中心と主ローラレール踏面の距離 (f)	±3	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
	B	水庄側戸当り高さ	全長 (g ₁)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B		重構造部 (g ₂)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B		軽構造部 (g ₃)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	非水庄側戸当り高さ	取外し部 (g ₄)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B		全長 (h ₁)	±10	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B		重構造部 (h ₂)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。	
	B	取外し部 (h ₃)	±5	左右各1箇所を鋼製巻尺で測定する。		
	A	主ローラ踏面板の厚さ (i)	+5, 0	上下各1箇所をノギスで測定する。		
	B	主ローラ踏面板の幅 (i _w)	B<0.5 ±2 0.5≦B<1.0 ±3 1.0≦B ±4	上下各1箇所を金属製直尺で測定する。	B: フランジ幅(m)	
	B	伸縮継手の位置 (j)	±10	鋼製巻尺で測定する。		
	A	底部戸当りの真直度 (k)	4	水平基準線からの変位をレベル、金属製直尺で測定する。		
A	底部戸当りの平面度 (l)	1/m	長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。			



工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
水門設備 1. 河川・水路用水門設備 (3) シェル構造ローラゲート(製作)	2. 戸当り	A	水圧側主ローラレール踏面板の真直度(m)	2(3) ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	水圧側主ローラレール踏面板の平面度(n)	1(2)/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	非水圧側主ローラレール踏面板の真直度(o)	2(3) ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B	非水圧側主ローラレール踏面板の平面度(p)	2(3)/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A	水密面の真直度(q)	2 ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A	水密面の平面度(r)	2/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。
		B	サイドローラレール踏面板の真直度(s)	6(6) ピアノ線、レベル、金属製直尺等で2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B	サイドローラレール踏面板の平面度(t)	2(3)/m 長さ1mの直定規からの変位をすきまゲージで測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
	3. 開閉装置	(5)	開閉装置寸法による。	

測 定 個 所 標 準 図	摘 要